

景況実感調査(9月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適當な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 荷動きは横這いで推移しており、とくに好転している感はない。値上げ転嫁については、メーカー値上げ分の半分位のところで停滞している。流通は採算維持のため、残りの転嫁に注力しているが、足元の乱れもあり、しばらく時間がかかる見込み。
- ② 引合いは少ないが市中で歯抜けが多い。鉄鋼メーカーは各社フル生産の状況。下期の引き受け量に影響が出る可能性あり。(電気メッキ、溶融アロイ)
- ③ 3連休や台風等で稼働日数は19日となったが(対前月比プラス1日)、売上、数量ともに前月比10%強のプラスとなった。繁忙感には程遠いが胎動は感じられ、見積数も増加傾向にある。SUSやカラー厚物は、価格、量ともに上伸力に欠け、依然として不透明感が強い。来年の消費増税や法人税減税等も決まり、これから、これらの影響も出てくると思われ期待している。民主党政権誕生時の期待感に似たものかも知れないが、今後こそ縮小均衡のスパイラルから脱出したいものだ。下期には全体の景色も変わると思う。
- ④ 流通は、ここに来て安値が解消され、秋口に向けて販売価格の上昇が見込まれる。
- ⑤ 稼働日数が20日間と少なかった割には、出荷量は前月比で増加。しかし、景況感としては良いとは思えない。団地内でも配送に車が少ない感がある。

中板

- ① 東京製鉄が値上げ発表も、荷動きは9月後半から減少。販価上昇も引合いは少ない。今後の建築需要に期待。

厚板

- ① 各ミルの11月の定修スケジュールが具体的になり、供給面でさらに厳しい環境となる見込みである。引き受けカットや非常に長いリードタイムが予想される。建材分野の需要は3Q以降底堅い状況になっており、枠の取り合いが激しくなることが予想される。市況の上昇機運が高まっており、価格転嫁も早急に進むと思われる。

一舟安开金岡

- ① 営業日数が前月比横ばいで、各調査項目もすべて横這いであった。来年の消費増税を控えて、国内鋼材需要の先細りを打ち消す東京オリンピック決定であった。自動車、造船等の大口需要は別として、国内鋼材需要の末端に立つ浦安鉄鋼団地は、今後5～6年活況を呈するだろう。
- ② メーカーは価格を上げたいのは分かるが、まだ価格の叩き合いがあり、厳しい。職人不足が如実だ。

H形鋼

- ① H形鋼については、在庫の減少やメーカー対応の変化により、市況が上昇しそうだ。一般形鋼はその逆の現象が続いており、非常に難しい。メーカー対応が変わらなければ、この悪い状況は続くだろう。
- ② メーカーロールも埋まっていることもあり、直近の需要分の出荷が流通在庫にも出てきており、歯抜けサイズも出てきている。先々の需要も見込まれ、さらなる価格上昇がなされるため、メーカー値上げ分の転嫁が急がれる。

異形棒鋼

- ① メーカーのコストアップから値上げは強硬。庫出し価格も65円/kgに上げた。
- ② メーカーの販売姿勢は強固で、スクラップ価格の高値定着もあって、物件向け価格は上昇している。市況は回復傾向にあり、流通としては採算を意識した販売を行ってゆきたい。

平鋼

- ① メーカー値上げに伴い、前回までの積み残し分の価格転嫁を実施したため仮需が発生。他品種に連動する形で平鋼価格も上昇した。実需も徐々に始めている中、メーカー値上げ分を如何に転嫁出来るかが、今後の課題。

鋼管

- ① 荷動きは好転しつつあり、加工分野を中心に忙しくなっている。引き合いも増えており、今後の期待される。
- ② 9月は前月比でも、前年比でも良かった。今後は少しずつ良くなってゆく気配。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品・トラック関連は堅調な動きが続いている。建設機械関連については、排ガス規制前の駆け込み需要が一巡し、先々の不透明な状況にある。店売りについては、低位横這いの状況が続いているが、市況については、メーカー値上げ品の入荷が進み始めている中で、利益確保が避けられず、9月から値上げ転嫁が本格化しており、10月に入り市況は上伸すると思われる。
- ② 全体の基調が低い。好転する見通しが立ちにくい。東京オリンピックに期待。
- ③ 前月対比では多少改善されているが、依然として良くない。値上げを実施しているが、市況としては厳しく、思うように進んでいないのが現状。

その他

<曲げ加工>

- ① 本年当初より低迷が続いていたが、しばらくぶりに先々月に比べて10%以上に加工売上増となった。これも一時的なものとも知れないので、予断は許されない。売上が上がった要因としては、いつもよりかたまった受注と外注加工の増加だ。今後、中小企業向けの設備投資により加工が増えることを望む。

<金属表面処理加工>

- ① 9月は物件物、紐付き材ともに計画通り。スポットは8月に比べ1件当たりの物量が多くみられ20%以上の扱い量増加となる。引合いも活発なこと、橋梁やプラント案件を含め山積みが見込めることから、10月以降も高い操業となりそうである。